

## 週日の説教

金 大烈 神父 2011年5月24日(火)

### 《私は幸せです！》

前教皇のヨハネ・パウロ二世が亡くなる前に残した遺言を覚えていらっしゃいますか。「私は幸せです。あなたがたも幸せになってください。」という言葉で、結構有名になっています。

彼はポーランドに生まれ、第二次世界大戦の時、アウシュビッツというところでたくさんの人々が殺される光景を見ながら育ちました。だから、教皇に選ばれてからの彼の使命のテーマは、「世の中の平和」でした。しかし、彼が教皇として在職していた間も、世の中は今と同じように、平和より紛争や惑の働きの方が活発でした。たくさん子どもたちが罪もなく死んでしまい、力のある国が利益のために力のない国を滅ぼそうとする時代でした。その中で、ヨハネ・パウロ二世はいつも『平和』を叫んでいました。しかし、そのように平和を求めたにもかかわらず、彼は平和になった世界を見ないまま亡くなりました。それでも、彼が残した言葉は「私は幸せです。あなたがたも幸せになってください。」でした。

この言葉には、深い意味が隠れているのではないかと思います。今日の福音（ヨハネ 14・27-31a）の、「わたしは、これ（平和）を、世が与えるように与えるのではない。」というイエス様の言葉とつながっているのではないのでしょうか。イエス様がおっしゃった『平和』、そしてヨハネ・パウロ二世の「私は幸せです。」という告白には、私たちが感じてはいない何かの力があるのではないかと思います。

イエス様がおっしゃった『平和』というのは、痛みがあっても、苦しみがあっても、心配事があっても、絶対的な力に希望を置く、そういう平和でしょう。「私は、どんなことがあってもイエス様が約束された御国、まことの幸せを信じます。」という心から生じる平和ではないかと思います。多くの聖人たちが殉教する時、平安な顔を見せられたことにも、私たちが知らない『平和』があるのではないかと思います。

私たちはいつも、条件、環境によって、「私は不幸だ。」と言っています。しかし、もしそれを乗り越えて、『イエス様が残してくださった平和』というものの味を味わうことができれば、皆様の顔にも私の顔にも、平安な何かが輝くのではないかと思います。いつも「私は不幸だ。」と思っている方は、反省してみてください。その方は、イエス様の御心を全然分かっていないのです。どんな理由も言い訳にしかありません。イエス様がおっしゃった『絶対的な力』を信じれば、どんな恐れも乗り越えられるのではないのでしょうか。

では、イエス様が残した平和とは何でしょうか。いつも申しあげているように、“十字架を正しく受け入れられた時”、“この世の中の苦痛について正しく理解できた時”、“人と人との関係がどういう意味か分かった時”、“私たちがどのような生き方をしなければならないか少しでも分かるようになった時”、“これが平和の始まりだ”と自然に告白できるのではないかと思います。

今、私たちが生きているこの世の中も、複雑で、いろいろな汚れに囲まれています。しかし、私たちはその中でも、平和を保たなければなりません。それには、**平和を主張する前に、先ずまことの平和の意味を体験することが必要**でしょう。その平和はどこから来るのでしょうか。毎回与っているミサで、イエスをいただく時、自分の体に受け入れた時、その平和の意味を聞いてみてください。イエスが教えてくださると思います。

ありがとうございました。